

リハビリテーション・栄養・口腔の 三位一体の取り組み

特集にあたって

医療および介護のいずれにおいてもリハビリテーション・栄養・口腔の連携の重要性が繰り返し強調されています。国の政策方針である「骨太の方針2023」でリハビリテーション・栄養・口腔の三位一体の取り組みへの重点化が明確にされ、2024年度の診療・介護報酬改定では三位一体の取り組みに新しく点数が付与されました。

リハビリテーションおよび栄養管理、口腔管理はいずれも高齢者や病者、機能障害者において欠かせないパーツであるものの、これまでは各アセスメントとケアが個別に実施されていました。しかしながら、それぞれの取り組みをより効果的に実施するためには、リハビリテーション、栄養、口腔の各分野の連携が重要であると考えられています。栄養管理において、栄養の視点でのアセスメントやケアもそれ自体が重要なものですが、ADLや栄養状態、口腔・嚥下状態を多面的に評価し、専門家間での情報共有とケアの連携を行うことがより重要になります。

本特集では近年注目されている、リハビリテーション・栄養・口腔の三位一体の取り組みについて、最新の情報およびエビデンスを踏まえ、この領域の第一人者にご解説いただきます。

熊本リハビリテーション病院 サルコペニア・低栄養研究センター

吉村芳弘